

# SDGsの視点から見た建築・保育環境 スウェーデンの事例から

第3回

## まちづくりに向けた子どもや若者の 参画の事例から

浅野由子 | 日本女子大学家政学部児童学科 専任講師



### はじめに

第1回、第2回では、スウェーデンの建築環境が如何に持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals; SDGs 以下省略) と関連しているのかについて、特に保育・教育における人的・物的環境から紹介してきた。第3回では、まちづくりに向けた子どもや若者の参画の事例について、紹介していきたい。

SDGsの目標は、政治家だけでなく、市民一般のあらゆる職種の



写真1 駅前にスウェーデンのダーラハウス (DALAHUS...ダーラナ地方の家) を建て、政党別に選挙活動を行っている様子

人々から挙げられた目標から17目標が選定されており、「誰一人としてとり残さない!」というスローガンが掲げられていることから、子どもや若者を含めたすべての人が市政へ参加することが望まれている。スウェーデンでは2022年9月11日に総選挙が行われ、中道左派の連合政権が敗戦し、野党の右派連合が勝利した。その選挙投票率は85%と、人々の市政への関心が高いことがうかがえる【写真1】。このような民主主義国家で如何に、子どもや若者、そして女性や障害者といった社会的弱者と規定されやすい人々にとって、参加しやすい社会となっているのか。その背景を探ることは重要である。たとえば、スウェーデンの10代の若者で環境運動家であるグレタ・トゥーンベルグ氏が、2017年よりスウェーデン議会前で1人でデモを始め、気候変動問題への提唱を世界的に行っている人として有名であるが、彼女のような若者が社会で声を上げ、その行動が大切にされる国の秘訣は何であろうか? 今回は、その秘訣を、まちづくりという視点で、ウプサラ市の市政において子どもや若者の参加がどのように行われているのか考えてみたい。

### ウプサラ市における中期的・長期的目標

筆者が長年住んでいたスウェーデンの第4の都市であるウプサラ市という都市は、スウェーデンの首都ストックホルムから約60km北東に位置する人口約20万人の大学街として知られている。北欧最古の大学であるウプサラ大学には、世界各国から学者や研究者が集まってくる。ウプサラ市は、2018年、2020年に、世界自然保護基金(WWF)の「One Planet City Challenge」のコンテストで1位となり、世界的に気候に優しい都市として表彰されている。そのウプサラ市においては、どのような環境政策が行われているのであろうか。

ウプサラ市の持続可能課という部署では、中期的・長期的目標を掲げながら、さまざまな人々(すべての市民)の参加を促すような9つの目標が制定されている【註1、写真2】。





写真2 2022年に新しく建設されたウプサラ市役所は、以前の市役所に増築される形で建設された



写真3 市の中心にあるコミュニティーハウスの中庭には、栽培や遊びや余暇が楽しめる緑を意識したサステナブルな環境が整備されている

1. 公正で持続可能な経済を保障する。
2. 生活をするのに安全で魅力的な街とする。
3. 田舎と都会で、持続可能なコミュニティーハウスを建築する [写真3]。
4. 公共の健康と質の高い生活のために、平等と統合そして良い前提条件を持つ。
5. 市民が、生活と仕事をする場所を持つ。
6. 子どもたちと生徒が、学校の試験を通過し、挑戦しながら彼らの学習・教育課程を終えること。
7. すべての年齢に優しい街にする。特に、障害を持っている市民にとって、安全で自由な統合がされていること。
8. 誰一人として取り残されない、市民団体や企業が社会構築に重要な一部として機能する。
9. 雇用者は、良い仕事環境が与えられ、ウプサラ市の需要に見合う高度なレベルを持つ。

である。この中でも、7は高齢者福祉や若者そして障害者の視点が強調されており、3は特に、化石燃料使用の停止を2030年までに到達し、2050年までに気候変動の問題を解決する市制を鮮明に打ち出している。また、その目標には、生物多様性の欠如に際し、野生的生活と植物のための生態を考慮しながら絶滅危惧種を守るという具体的な行動内容をも示している。特に、3の目標達成のためには、8つのターゲットという具体的な目標を掲げて、気候変動への取り組みを強化している [註2]。

まず、ターゲット①は、2030年までに、100メガワットの太陽光エネルギーを確保できる土地をウプサラ市に確保する。ターゲット②

は、2023年までに、ウプサラ市が所有する乗り物や機械、公共交通を化石燃料ゼロとする。買収した契約物は2027年までに化石燃料ゼロにする。ターゲット③は、ウプサラ市は、2030年までに気候中立を企業において確立するために、エネルギー効率の視点から、毎年使用する直接エネルギーを軽減しなければならない。ターゲット④は、ウプサラ市は、調達、買収した環境や健康に害の与える物品やサービスそして契約物の含有率を減らしていかなければならない。ターゲット⑤は、ウプサラ市で、企業により買収した食品は、2023年までに100%オーガニックフード(有機的食品)にする。2030年までに、ウプサラ市で買収した食品の1kgあたり、二酸化炭素排出1.25kg以上にはいけない。ターゲット⑥は、2030年には、ウプサラ市は、プラスチック製の新しい商品は再利用あるいは再生したプラスチックのみが含まなければならない [写真4]。ターゲット⑦は、ウプサラ市は、2030年までに気候中立を確立するために、毎年、建設が終了したプロジェクトや毎年建設されるプロジェクトの温暖化ガスの排出量を減らさなければならない。その目標は、自治体のプロジェクトだけでなく、埋め立てを通して履行されているプロジェクトも含むものとする。

この提案は、2022～2025年の間のアクション・プランとして提案されたものであり、プログラムの長期的視点とマイルストーンの到達可能性が明らかになるように、履行されている22の優先された計測を含んでいる。すべての計測は、市議会で調整され、提案されたものである。





写真4 ウプサラ大学構内のカフェには、分別を徹底するよう木製のゴミ分別置物がある

## 公共施設に見られる工夫と環境政策

ここで詳しくウプサラ市の公共施設においては、そうした目標を到達するために、どのような工夫が見られるのか、紹介しよう。

たとえば、市立図書館では、子どもや若者、障害者にとって利用しやすい図書館にするために、子どものための遊び場やバリアフリーの配慮がよく見られる。

市の公園は多くあるが、子どもの安全性を考え、地面に柔らかな敷物が使用されているケースが多い。また、就学前施設や小学生の



写真5 森に親しみやすいモチーフ(キノコやブルーベリー)でつくられた木製の遊戯や安全性を考慮した敷物の公園である。子どもたちのアイデアで、鳥小屋も設置されている(出典…Uppsalas lekparkar <http://www.uppsalaslekparkar.se/skivlingparken-norby/>)

子どもたちのアイデアを募り、子どもの意見を取り入れてつくられた公園がある。たとえば、就学前から子どもが親しむウプサラ市出身の作家の物語絵本『尻尾のないペッレ (PELLE SVANSLÖS)』を題材にしている公園や小学生の意見から生物の多様性を活かした公園である[写真5]。

また前回は「子どもの権利」を保障しているスウェーデンの保育や教育に関する建築環境をご紹介したが、ウプサラ市が管轄している「子どもの家 (BARNAHUS)」についてもここで紹介したい。

「子どもの家」は、特に、子どもに虐待等の疑いのある場合に訪問する場所である。日本で言うと児童相談所にあたる施設になるが、その施設には、警察の担当官、ケースワーカー、臨床心理士、法律家といった専門家が、ケースについて詳しく検討できるような施設となっている。何よりも、マンションの中にある施設は、子どもにとって居心地の良い場所となる工夫がされており、年齢別の発達に考慮した空間を用意されている。子どもの権利条約にある第28条「子どもの意見表明権」が空間的にも保障されている点で、着目に値しよう。

[註3、写真6]。

また、未来の市政を担う高校生や大学生の都市計画(まちづくり)へのアイデアを積極的に活用していく試みも多くある。前述したWWFのプロジェクト「持続可能な都市 (HÅLLBAR STAD)」では、2015年に、自治体が市内の高校と協力し授業の一環として、学生がグループでアイデアを出し合うコンペとして募集を募った。

さらに、筆者自身が、ウプサラ大学持続可能な開発センター (Centre for Sustainable Development; CSD) のプロジェクトリーダーとして関与していたプロジェクト「ReSolve Innovation Competition」は、VINNOVA (スウェーデンエネルギー機構) からの助成金を得て、大学生あるいは大学院生にウプサラ市の洪水問題を解決するためのまちづくり計画を提案して、アイデアを募るというものであった[註4]。このプロジェクトでは、ウプサラ市の地形的な特徴から、洪水対策が喫緊の課題となっている環境問題を、未来の市政を担う若者



写真6 子どもの家 (BARNAHUS) の部屋には、さまざまな色や年齢を考慮した遊具や雑貨等により、子どもが寛げる空間を心掛けている(出典…ウプサラ市ホームページ <https://www.uppsala.se/stod-och-omsorg/stod-till-barn-ungdom-och-familj/barn-och-unga/barnahus-uppsala/inne-i-barnahus/>)

の学生にアイデアを募ることによって、斬新で新しい考え方を市政に導入することを目的としたプロジェクトであった。ウプサラ大学の学生だけでなく、ウプサラ市スウェーデン農業大学 (Sweden Länburk Universitet; SLU) の大学生も含め、5つのグループからのアイデアをコンペで競い、ウプサラ大学持続可能な開発センターや経済学部、地質学部の教授陣、そしてウプサラ市の環境課の職員に審査員をしてもらうことによりアイデアを審査するというものであった。最終的に、コンペで採用された学生グループ「SOLVE」のアイデアが、ウプサラ市の環境政策に反映されることになった。採用されたグループのアイデアは、審査員により以下の理由で評価された。「多彩なステークホルダーの必要性と挑戦的なアイデアがあり、その提案は、持続可能なウプサラ市がめざすいくつかの目的と適合している。その提案は、革新的で、人間中心の技術とデザインを通して、洪水の質と量の問題を解決している。」というものだ。評価基準は、①技術的実現可能性、②持続可能性、③ランドスケープの適応性、④実効性、⑤統合性(ステークホルダーに関係)、⑥広告の潜在性、⑦機能性(多機能性)、⑧コスト効果、⑨目新しさ(創造性)、⑩発表(口語と筆記)であった。賞として授与したのは、2017年10月に開催された、イタリアサルディニア島で行われた水に関する会議で発表機会を得ることであった。アイデアを出した5つのグループは、専門家である自治体や大学、そして企業やNGOや市民といった多彩なアクターと関わることにより、主体的・対話的・深い学び(アクティブ・ラーニング)を通してアイデアを深めていく作業を約半年かけて行うプロジェクトであった【註5、写真7】。

以上のように、SDGsに向けたウプサラ市の環境政策は、気候変動対策だけでなく、子どもや若者や障害者を含めた社会的弱者と呼ばれる人々を統合し、すべての人々の参加を促していることが建築学的にも伺うことができる。サステナブルなまちづくりには、自然保護的だけでなく、民主主義的な視点も不可欠であり、特に、社会的弱者になりやすい子どもや若者に耳を傾けることは重要であろう。



写真7 コンペで学生グループ「SOLVE」が提案した「洪水」対策のアイデア

- 註1 ウプサラ市ホームページ <https://www.uppsala.se/climatecity>  
 註2 Uppsala Kommun “Uppsala Municipality’s Sustainable Development” Mikaela Hansson, 2, Sep. 2022  
 註3 Uppsala Kommun “Barna Hus” <https://www.uppsala.se/stod-och-omsorg/stod-till-barn-ungdom-och-familj/barn-och-unga/barnahus-uppsala/inne-i-barnahus/>  
 註4 RESOLVE INNOVATION COMPETITION, Report 2015, Williamsons offsettryck AB, 10. October. pp. 1-46  
 註5 Jasper R. de Vries 1, Severine van Bommel, Chris Blackmore, Yoshiko Asano “Where There Is No History: How to Create Trust and Connection in Learning for Transformation in Water Governance” Molecular Diversity Preservation International, Water, 2017, Vol.9, No.130, 1-15.

#### あさの・よしこ

1999年日本女子大学家政学部児童学科卒業。2008年同大学大学院人間生活学研究科人間発達学専攻博士課程単位取得退学。2015年スウェーデンウプサラ大学持続可能開発センタープロジェクトマネージャー。2018年ウプサラ市私立マルマバツケ就学前学校教諭。2020年より現職。博士(学術)

## 自習型認定研修の設問

### 設問1

スウェーデンのウプサラ市の環境政策では、化石燃料の使用停止を目標としている。その到達目標年は何年か。

- a. 2027年
- b. 2030年
- c. 2040年

### 設問2

スウェーデンのウプサラ市では、企業により買収した食べ物の100%をオーガニックフード(有機的食料)にするという目標がある。その到達目標年は何年か。

- a. 2023年
- b. 2027年
- c. 2030年



認定教材の設問への回答は、CPD情報システムのページ <https://jaeic-cpd.jp/> にアクセスのうえ、お願い致します。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。

※自習型教材の選択欄における会誌『建築士』選択項目は、平成28年1月より建築士会会員のみの表示項目になります。